

## マイボトル給水機設置に伴う費用助成についての意見書

プラスチックごみによる海の汚染は、世界中で深刻な環境問題になっている。これまでに大量生産・大量消費されてきた使い捨てプラスチックの90%以上はリサイクルされていない。川や海に流れ出したプラスチックごみは、生態系に深刻な影響を与えている。プラスチックが小さな破片に砕けてマイクロプラスチックとなり、動物が餌と間違えることで食物連鎖の中に取り込まれ、私たちの飲み水や食べ物の中にも、入り込んでいく。

拡大生産者責任の強化も進まず、自治体の処理費用もかさむ一方である。海外ではストローやレジ袋など使い捨てプラスチック製品が国や自治体によって続々と禁止されている。

また、国連のレポートでは、日本の1人当たりの使い捨てプラスチックごみの発生量は世界2位とも報告されており、1年に227億本ものペットボトルが、日本で使われている。そこで、誰でも簡単にマイボトルに飲み水を補充できるまちなすることで、ペットボトルの消費を減らすことが可能となる。先進的なプラスチックフリー施策が進むロンドンやパリでは、マイボトル給水機が激増中とのことである。

2018年夏の猛暑、熱中症で体調を壊した人が、急増した。公共空間や児童遊園、公園にマイボトル給水機を設置し、マイボトルに給水することで、熱中症から身を守ることも可能となる。

東京都は2018年3月、全国初の屋外型ボトルディスペンサー式水飲栓を東京国際フォーラムに設置し、国内外を問わず、より多くの人に高品質な水道水を実感してもらうとしている。今後、東京の安全でおいしい水道水を体験できる空間を「Tokyo water Drinking Station」として統一的に展開していく方針である。

ボトルディスペンサー式水飲栓の特徴は、1、冷たい水をマイボトル等に注ぐことが可能。2、ユニバーサルデザイン（車椅子対応、ピクトグラム、点字対応）などである。

マイボトルに注水可能な給水機を多くの場所に設置することでペットボトルを削減でき、海洋汚染を防ぐことができ、熱中症予防に役立つとなれば「一挙三得」の効果が期待できる。

よって、本市議会は、東京都に対し、下記のことを強く要望する。

### 記

- 1 マイボトル給水機・ボトルディスペンサー式水飲栓を、東京都の公共施設・公園・駅前広場等に増設すること。
- 2 市町村が、駅前広場や児童遊園及び公園等にマイボトル給水機を設置するに当

たり、設置費・維持管理費の助成を行い、水道料金等を減免すること。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成31年 3月26日

三鷹市議会議長 宍 戸 治 重